

レース名	日付	クラス	場所	コース	展開	想定馬場	ポイント
兵庫ゴールドトロフィー	2018/12/26	JpnIII	園田	1400m	ハイペース	良	末脚の持続力

枠	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	父	父系統	母父	母父系統	能力	騎手	適性	展開	総合評価	期待値	印	結果
1	1	サクセスエナジー	牡4	57	松山	キンシャサノキセキ	サンデー系	ジャングルポケット	ナスルーラ系	B	B	B	C	B	B	△3	
2	2	サンライズメジャー	牡9	56	大野	ダイワメジャー	サンデー系	Deputy Minister	ノーザン系	B	C	B	B	B	B	○	
3	3	キクノステラ	牡6	51	岡部	エンパイアメーカー	ミスプロ系	サクラバクシンオー	ナスルーラ系	C	A	B	B	C	B	△1	
4	4	サハラファイター	牡5	51	大柿	ロージズインメイ	ハイロー系	ネオユニヴァース	サンデー系	D	C	D	D	D	D		
5	5	リッパーザウィン	牡6	51	鴨宮	ヨハネスブルグ	ノーザン系	タイキシャトル	ハイロー系	D	C	C	B	C	C		
	6	ウインムート	牡5	57	和田	ロージズインメイ	ハイロー系	マイネルラヴ	ミスプロ系	B	B	C	C	B	C	×3	
6	7	エイシンヴァラー	牡7	56	田中学	サウスヴィグラス	ナスルーラ系	シンボリクリスエス	ロベルト系	B	A	B	B	B	C	×4	
	8	サクラレグナム	牡9	52	赤濱	サクラプレジデント	サンデー系	ブライアンズタイム	ロベルト系	B	A	B	B	B	A	▲	
7	9	ラブレット	牡7	54	山本聡	ノボジャック	ノーザン系	バブルガムフェロー	サンデー系	B	B	B	C	B	B	×1	
	10	エイシンバランサー	牡6	56	下原	Ghostzapper	ノーザン系	Mizzen Mast	ナスルーラ系	B	A	A	A	A	B	◎	
8	11	アールプロセス	牡7	55	川原	ネオユニヴァース	サンデー系	Private Account	ダマスカス系	C	A	B	B	B	B	△2	
	12	マテラスカイ	牡4	58	吉村	Speightstown	ミスプロ系	Rahy	ナスルーラ系	A	A	C	C	B	B	×2	

隊列図	見解	ラップタイム
マテラ ウィン ラブバ サクセ サクラ エイヴ エイバ キクノ アール サンラ リッパ サハラ	園田1400mは意外と差しが決まりやすいコース。田競馬場は地方競馬の中でも小さいので、一見逃げ、先行有利に思われがちだが、3～4コーナーにスパイラルカーブを採用しているため（3コーナーの入りか緩やかな分、向上面からロングスパートを打ってもコーナーでスピードを落とさずに回ることができる）、イメージ以上に差し（正確にいうとマクリ差し）が届きやすい。過去の兵庫ゴールドトロフィーの結果を見ても、向上面から位置を押し上げて最後までバテずに長くいい脚を使える馬がよく好走している。上り最速をマークした馬は【3.3.0.0】と連対率100%。「どの馬が最後まで長くいい脚を使えるか」という視点で考えることがこのレースでは非常に重要な要素といえる。今年、断然の1番人気に支持されそうなマテラスカイは典型的な逃げ馬。能力の高さで押し切っても何ら不思議ではないが、人気を考えると、やはり疑った目で見ると見るべきだろう。今年の兵庫ゴールドトロフィーは大波乱まであるかもしれない。それでは予想にいきましょう。	回顧
ハイペース	本命は地元の エイシンバランサー が堅実駆けのはず。JRAのオープンクラスでアタマ打ちになっていたが、園田に移籍後は5戦3勝。（以下省略）	次走狙い馬

枠	馬番	馬名	印	評価	結果	回顧
1	1	サクセスエナジー	△3	コーナー4回のダート1400mで2戦2勝(かきつばた記念、さきたま杯)。園田1400mでも問題はなさそうだが、1枠1番からどう捌くかがカギ。本質的に揉まれていいタイプではない。		
2	2	サンライズメジャー	○	JRA勢の中で「器用さがあり、追われてしっかりと伸びる」のは本馬。ダート路線を歩んでから活力を取り戻したような走り、毎回終いは確実に伸びているかきつばた記念の走りを見る限り、コーナー4回のダート1400mは合っている。マテラスカイが引っ張るペースも本馬に向くだろう。		
3	3	キノステラ	△1	地元の園田では【11.1.0.0】と無類の強さを誇っている馬。唯一の敗戦だった園田チャレンジカップはハイペースの中、向上面からマクスの厳し過ぎる競馬。鞍上がペースを読み違えただけで、地元では事実上、負けなしと判断していい。持ち時計と斤量を考えれば、普通に通用する計算が立つ。		
4	5	サハラファイター		園田に転入後、6戦して勝利を挙げたのはA2の一戦のみ。能力不足の上、1400mは本馬にとって短過ぎる。		
5	5	リッパーザウイン		園田1400mの持ち時計が1分28秒9。兵庫ゴールドトロフィーは例年1分25~26秒台の決着になるので、51キロの軽ハンデでも上位争いに加わるのは難しいだろう。		
	6	ウインムート	×3	コーナー4回のダート1400mで17年サマーチャンピオン1番人気3着、18年オーパルスプリント1番人気8着と人気を裏切っているのが気になる。外から被されると自分からすぐにレースをやめる面があり、向上面から後続勢が押し上げてくるコーナー4回のダート1400mは合っていないだろう。		
6	7	エイシンヴァラー	×4	今年の黒船賞勝ち馬だが、その後の地方ダートグレードでは、かきつばた記念4着、サマーチャンピオン5着、東京盃11着と結果を残せず。どうも一時期の勢いがなくなっており、前走笠松グランプリで8着に敗れたのを見ても、ダートグレードではもう通用しないかもしれない。		
	8	サクラレグナム	▲	高知に移籍してから馬が蘇り、特にダート1400mでは【2.1.0.1】と安定した走り。前走笠松グランプリでは正攻法の競馬で、勝ち馬エイシンバランサーから0.4秒差の2着に好走。今回、エイシンバランサーとの斤量差は4キロに広がり(前走は同斤量)、着差が詰まるどころが逆転まであっても驚けない。		
7	9	ラブバレット	×1	前走笠松グランプリが案外の結果も、やや消極的に乗り過ぎた印象。もう一列前で運べていれば、結果もまた違っていただろう。兵庫ゴールドトロフィーは3年連続の出走で、16年4着、17年2着と相性のいいレース。斤量54キロを生かして強気な競馬をすれば、今年も馬券圏内に加わってきそう。		
	10	エイシンバランサー	◎	追えば追うだけ伸びるような馬で、マクリ差しが利きやすい園田1400mはベスト条件。サマーチャンピオンですでにJRA勢を撃破しており、ダートグレードに入ってもそんな色ないのはすでに証明されている。自分のタイミングで動きやすい外目の枠に入った以上、ここは堅実に走ってくるだろう。		
8	11	アールプロセス	△2	8ヶ月の休み明けで挑んだ転入初戦の神戸ビーフ特別(A1)では前走で重賞を勝っていたナチュラルリーを下して勝利。スタートから行く気満々で非常にパワフルあふれる走り、間隔をじっくりと取ったことが非常にいい方向に出ている印象を受けた。JRA時代にはオープン特別で好走歴もある馬。		
	12	マテラスカイ	×2	能力上位も、コーナー4回のダート1400mに対応できるかは未知数。レースの傾向を考えても逃げ馬には厳しい展開になりがちで、意外とボカがある血統でもあり、人気ほど信頼度は高くないだろう。大外枠を引き、序盤に脚を使わされそうなもネック。		